

音楽科

昨年度の取り組みと成果と課題

【 成果 】

- ・低学年では、音楽に合わせて体を動かしたり拍に合わせてリズム良く手拍子したりすることができるようになり、楽しんで学習に取り組めるようになった。また打楽器などの楽器に関心をもち、音色の特徴などに気付くことができた。
- ・中学年では、歌詞や曲想などから情景を想像したり、歌い方の工夫をしたり、友達の演奏のよさを見付けることができるようになった。
- ・高学年では、楽譜を見ながら表現の工夫を考えたり、繰り返しや変化といった音楽の仕組みや、音色や速度などの音楽の要素と結び付けて楽曲の良さを考えたりすることができる児童が増えた。

【 課題 】

- ・低学年では、鍵盤ハーモニカを運指に気を付けて演奏したり、音の高さを感じて歌ったりすることに課題が残る。また拍やリズムの違いといった用語の意味が定着していない児童が多い。
- ・中学年では、楽曲の面白さや演奏の良さについて感じ取ってはいるものの、言葉にして分かりやすく友達に伝えたり、ワークシートにまとめたりする際に、語彙力の差が見られる。
- ・高学年では技能面の定着に差がある。昨年度も合唱や器楽の活動時間が限られたため、発声方法やリコーダーの運指などに課題がある。そのため自身の歌や演奏について自信がなく、友達の前で発表することに抵抗がある児童もいる。またどの学年においても、楽曲の面白さや友達の演奏の良さなどについて、自分の考えを言葉にして伝える力に大きな差が見られる。

学習状況の分析

○知識・技能

- ・中学年でリズム譜に親しみ、階名フラッシュカードや階名唱を多く取り入れており、簡単な楽譜であれば自力で読めるようになってきている。音楽用語の意味の理解については差が大きい。
- ・合唱や器楽の時間が減ったため、特に高学年では曲に合う発声で声の響きを揃えて歌うことや、リコーダーを正しい運指で演奏するなどの技能面の定着が低い。

○思考・判断・表現

- ・中学年では、友達の演奏や考えからいいところを見つけたり、演奏や音楽づくりの工夫について自分の考えを広げたりすることができる児童が多い。
- ・高学年は音楽づくりや器楽合奏においては、音楽の仕組みを生かすなどの工夫をしたり、友達の演奏のよさについてまとめたりすることができているが、歌唱に関しては強弱以外の工夫について広げられない児童が多い。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・中学年では、グループ活動で自分の意見を発表したり、友達の意見を受け止めたりすることができおり、主体的に取り組んでいる児童が多い。クラスの実態に応じて、授業内で重点的に取り組む部分(2～4小節または1フレーズ)を示したり、活動時間を短く区切ったりして飽きさせない工夫が必要である。
- ・高学年では器楽や歌唱の学習で演奏の工夫を考えたり、音楽づくりの学習で音の重ね方を工夫したりするようなグループ活動において、友達と協働して学習に取り組むことが難しい児童が一定数みられる。

授業改善のポイント（観点別）

【 低学年 】

○知識・技能

- ・鍵盤ハーモニカの正しい指づかいを歌で覚えたり、音の高さをつかむため体を動かしながら歌ったりする。

○思考・判断・表現

- ・友達と一緒に音楽に合わせて体を動かしたり拍に合わせて手拍子したりして、即興的な表現活動に親しむようにする。
- ・聴き取った旋律やリズムから感じたことを、手拍子の打ち方を変えたり体の動かし方を工夫したりすることによって表現する。

○主体的に取り組む態度

- ・いろいろな音楽を聴いたり歌ったり演奏したりすることで、音楽への親しみをもたせる。
- ・身体表現を生かした活動を増やし、児童が音楽を楽しむことができるようにする。

【 中学年 】

○知識・技能

- ・常時活動として音名読みや、リズム打ちに引き続き取り組む。また、曲に出てくる新出の記号の読み方や意味について毎回確認し、定着をはかる。
- ・歌唱や器楽を聴き合う時間を多く設け、自分自身や友達の演奏について振り返りをする。

○思考・判断・表現

- ・グループやペアでの活動を増やし、友達の考えからヒントを得て自分の考えを更に広げられるようにする。自分の考えを表出しやすくするために、使えそうな言葉を例示しておく。

○主体的に取り組む態度

- ・1時間の学習の流れを板書で示し、見通しをもって取り組めるようにする。
- ・特に器楽では、スモールステップで自分に合った課題を選んで取り組めるようにする。

【 高学年 】

○知識・技能

- ・歌唱や器楽の活動時間が限られるため、既習事項に触れながら、ねらいを絞って取り組むようにする。

○思考・判断・表現

- ・ワークシートに手掛かりとなる言葉を提示し、記述やグループ活動・音楽づくりなどの活動の手助けとなるようにする。
- ・ペアやグループでお互いの演奏を聴き合う活動を増やし、友達の演奏の良さを自身の演奏に生かせるようにする。

○主体的に取り組む態度

- ・発表の場を多く設け、お互いの頑張りや表現のよさを認め合えるようにする。
- ・特に器楽では、取り組む部分を絞り、スモールステップで自分に合った課題を選んで取り組めるようにする。
- ・活動時間を短く区切って集中できるようにする。

